



梨店記

孟子之記

明  
六  
同  
音  
九  
日  
月  
子  
公  
之  
空

特別  
A5  
6581  
6













輝

子相一葉の道又男

うらぬと笑くちかひを

もの4糸に

羽より松蔭く多人も遠きもよ

山

千軍斬りぬり一葉天

後れぬちをち

そとふし〜ん老いおのゆえをも

山

あ

又の切は陸の真より庭の後之卜科百の湖海の面も  
あるそよ木の心より山は遠き事か行りし此の心  
中もその心のかへ〜の心も遠き事か行りし此の心  
ちかひの心のかへ〜の心も遠き事か行りし此の心  
松の心も入る心〜の心も遠き事か行りし此の心  
〜の心も入る心〜の心も遠き事か行りし此の心  
海もあつ〜の心も遠き事か行りし此の心



海のほとりへ舟をこぎし海はぬきし海は舟の影を照らすは  
たふさくは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは  
舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは  
舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは

舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは  
舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは

舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは  
舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは

舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは

舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは  
舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは

舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは

舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは  
舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは舟の影を照らすは



















鏡みへの響く如く授けしもの上

右

ノ、ツリ長り福の庭巡る

右

物解法酒の初産の日の出代をその日歩善法も  
酒の故廻村の部カ一まうり深めういれは是が各々  
例のちまき福のうみ酒のあつたるものみ  
是の集りより由緒をゆくはういれは是をゆり

海の家の子あつた如くは是の産の日の出代をその日歩善法も  
酒の故廻村の部カ一まうり深めういれは是が各々

福のうみ酒のあつたるものみ

けいお雑し

新のうみ酒のあつたるものみ

正一 目 二 右 左 三 右 左 四 右 左

けいおのうみ酒のあつたるものみ  
朝のうみ酒のあつたるものみ







此の世をこぼれけしきくは世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ  
そくくもつとあはれ

あはれしきくは世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ

あはれしきくは世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ

予りては世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ

予りては世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ

予りては世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ

予りては世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ

あはれしきくは世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ

あはれしきくは世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ

あはれしきくは世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ

あはれしきくは世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ

あはれ

あはれしきくは世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ

あはれしきくは世にうへは世の中の人をこぼれしはあはれ







一〇長谷松堂より三河食事も長谷の由に降つて酒切をなす  
大連の掛は松山に平の掛酒の松堂の買方し後刻を納せ  
母河を留るゝ初梅の務辛まの務辛三郎下買成井〇新函蓋西  
原下つゝ吉野山可さけし月切をなす〇曲隈宿務をなす  
はるる法より是れりなせんを長谷の以てある新函〇瑞成  
り河を海を白く流る代に十三初梅〇少曲成をなす無成能人  
松原堂代に松山井〇りやるをなす山行一宿をなす海より  
海より是の由に松の宿由通る列

古橋の松山宿より長谷

古橋の松山宿より長谷

極楽山より松山

松山

松山梅芽より松山

松山

天の長谷を流るるもなす

つれも勤め入千室新の由

松山梅芽より松山







牛鹿方用る源く水も馬の馬直く毎々要知能知部く44履  
耳引少形力多の事永形に州郡○筆角よりあり留置形之  
是れをありある改日く是れを山利の陣中を州郡 留置  
するも人なり

筆角の横方本ありてう経家 似形

是より為る○是れが萬の文と云馬の馬直くを執る治る  
此後河ありまあるをたれと改りの角ありての又横方  
用るはれと云りたれと云りての陣中をありての

いづれの道へ入るなりと云りての列成ぬ○筆角より  
對置代に州郡 言より高御よりなり筆角はこれ  
又横方横方より河を横方よりなりての河より  
是れ○横方より入るなり河横方より州郡ありての  
は直く馬の馬直くをたれと云りての陣中をありての  
道へ入るなりと云りての陣中をありての  
れと云りての陣中をありての

是れより河の横方本ありての







その中しぬけゆをいへり。藤原の人形を以てしるす事  
ありて之へし。列入種をわすれぬ。けりぬる事。○其花  
体も。いふ。けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
いふ。けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
○其花。村。の。花。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花

けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花  
けり。ぬる事。けり。ぬる事。○其花

あき















はらぶ海

意校

紙取

紙取

噴紙

班書氏

春耕

一葉

山行

文素

朱一

鈎二

光蓮

菊戸

法書のおまらるゝ海をのり

おまらるゝ

7324  
彩るゝいゝかゝ思ふゝ後へ

紙取

まきゆゝきり紙の葉をのり

一葉

きりゆゝきり紙の葉をのり

菊戸

紙の葉をのり

紙取

きりゆゝきり紙の葉をのり

光蓮

ゆゝきり紙の葉をのり

山川

ゆゝきり紙の葉をのり

鈎二

ゆゝきり紙の葉をのり

意校

ゆゝきり紙の葉をのり

文素



井 娘 子 律 々 々 々 々 々 々  
 思 心 子 娘 の 情 々 々 々 々 々 々  
 併 心 子 娘 の 情 々 々 々 々 々 々  
 一 二 の 世 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
 入 心 子 娘 の 情 々 々 々 々 々 々  
 月 の 世 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
 松 心 子 娘 の 情 々 々 々 々 々 々  
 心 子 娘 の 情 々 々 々 々 々 々 々 々  
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

心 子 娘 の 情 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

心 子 娘 の 情 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

心 子 娘 の 情 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

右

右

文素

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二  
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二











新もみぢのり日影のしほりきり 新のり

枝れりもききり月の新のり

きりぬきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきり

きりきりきりきりきりきり

台所

借紙

銀二

元筆

朱一

布傘

巻遊

奈のきりきりきりきり

信のきりきりきりきり

信のきりきりきりきり

紙の

布巾

高段

解纏

萬戸

普初

山行

一巻

今もきりきりきりきり

今もきりきりきりきり























勢見

五之

昔の頃ねさうしてあさりかた  
胡蝶も物よ海もさう実も  
きりか物も琴もさうさう  
障りも物もさうさう  
果てはさうさうのさうさう  
さうさうとさうさう

五之  
勢見  
二  
三  
二

芸

切つたさうさうのさうさう  
相分海のものさうさう  
海もさうさうのさうさう  
さうさうとさうさう  
りさうさうのさうさう  
さうさうとさうさう  
さうさうのさうさう  
さうさうとさうさう

勢見  
二  
三  
二  
二  
二







今更に其のありし處の跡を  
 乃能く信じてみよふに遠く  
 却る處の心は人の心なり  
 此の心は遠くはるかにあり  
 其の心は遠くはるかにあり  
 其の心は遠くはるかにあり  
 其の心は遠くはるかにあり

右  
 海  
 心

今更に其のありし處の跡を  
 乃能く信じてみよふに遠く  
 却る處の心は人の心なり  
 此の心は遠くはるかにあり  
 其の心は遠くはるかにあり  
 其の心は遠くはるかにあり  
 其の心は遠くはるかにあり







何れか之を為さるる所を以て  
 是れ其の所なり  
 是れ其の所なり  
 是れ其の所なり  
 是れ其の所なり

別

寛文七年丁未二月長吏孫正徳  
 頼勤の所時於鎌倉  
 戴信の所一書也

野結	藤吉	座頭	権樂
陰陽師	碓師	尾造	过音
猿引	鏡物師	石切	放下
芝翫	过音人	鉦町	弓翫所
古里飛	浪之者	山中	若屋番
筆翫	玉師	関所	金翫
柳翫	簞作	傀儡師	柳翫

己上之所也











けし刺のあちう海平の積り  
萬分の海平のあちう  
さ刺の書はさる多し  
さ刺のあちう海平の積り

けし刺のあちう  
さ刺のあちう  
さ刺のあちう

さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り

さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り  
さ刺のあちう海平の積り

けし刺のあちう

さ刺のあちう

さ刺のあちう海平の積り

さ刺のあちう海平の積り

さ刺のあちう海平の積り

さ刺のあちう海平の積り

さ刺のあちう

さ刺のあちう

さ刺のあちう

さ刺のあちう



刻	一袋	名
赤	三	松
梅	十	す
菅	一袋	出
梅	一袋	出

けりて地底の濁りも亦れ此の底にありて地をさるゝ事なれり  
 一丁脱履思惟の口程御一は編綴之  
 思惟の口程御言の事ゆゑ物あり満ちてあり  
 偏り新法より改められたる事なり

此の事なりとありて

廿八日 快晴 晴

此の世の中はしる事ありてその所を記す  
 とうとう御おののしる事ありてその所を記す  
 此の世の中はしる事ありてその所を記す  
 世に神ありてその事ありてその所を記す  
 此の世の中はしる事ありてその所を記す  
 此の世の中はしる事ありてその所を記す











